

2011年10月8日土曜日、千葉市文化センターで行われた「10・8首都圏青年労働者集会」での発言内容です。

ユニオンに入ってから1ヵ月もたっていないのですが、このかん2回の団体交渉をおこなって感じたことをお話しします。

この度、私は「子会社、下請け及び派遣労働者」と言う新たな枠組みでのたたかいを決意いたしました。

現代社会は、子会社化、下請け外注化等、限りない分断化によって組合の組織率は低下しています。

ここにお集まりの皆さんは、おそらく非正規の方が多くのではないかと思います。

現代の組合活動は二極化しております。ひとつは非正規労働者を中心とした組合、もうひとつは、労働者の権利を主張し、事実上の弱者切捨てを行った組合です。この二極化を解消しなければなりません。

今回の「子会社、下請け及び派遣労働者」と言う新たな枠組みは、この組織率の低い中間層を取り込むための活動です。自分達はまだマシな方だ。自分達が口うるさい親会社の奴らを支えてやっているんだと言って、組合活動を軽蔑してきたこの中間層を取り込むための活動です。

彼らは、非正規職を差別する一方で、親会社の社員よりも低い待遇で、常に親会社に切り捨てられる恐怖に脅え続け、組合活動をする暇もないような状況で働き続けていると言う決して恵まれることのない存在です。

今回の提案はこれまでの組合活動に加えて、そんな彼らの共感を得るような活動と主義主張を展開していこうという提案です。

この提案は私が、NTTコミュニケーションズと言う親会社の元で働く、テルウェルという子会社で派遣社員として働いており、そこで雇い止めを喰らった事から提案させていただきました。これはとても恥ずかしい事です。まだ気づいてない人には、もっと早く気づいてほしいと思います。

震災から半年以上が経過し、自分が雇い止めを喰らい初めてこのような活動に参加させていただきました。自らが当事者となり、尻に火がついて初めて行動に移すというのは、とても恥ずかしいことではないでしょうか。

震災から半年が経過しても、統計上、日本の経済は全くダメージを受けていません。福島の人を被災地に閉じ込めたまま、日本全体では、倒産件数が増えたわけでもありません。

と言うことは、私のような形で気がつく人はとても少ないと言うことです。むしろ震災のおかげで潤っている人が、この日本にいると言うことです。

私達は、この日本のシステムそのものを変えなければなりません。

私の提案に対して、もっと違うやり方があるんじゃないか、とか、まずは同じ派遣同士で団結したほうが良いんじゃないかという声もありました。

しかし、考えてみて下さい。似たもの同士で集まるだけで何の解決になるのか、雇い止めを撤回しただけで何の解決になるのか、私達も勝ち組にして下さいと言って何の解決になるのか。私達はこのシステムそのものを変えなければなりません。

そのためには、農家の人たち、商店街の人たち、政治家、弁護士、経営者、全ての人を巻き込んでいかなければなりません。

今、ここにいる私達から声を挙げていかなければならないのです。

今回の提案は、そのための第一歩です。

みんなで助け合って生きていける社会にしたい。ただ、それだけなんです。

今後、各組合や個人にメール等で周知を行い協力を求めたいと思っています。興味のある方は是非、私まで声をかけてください。よろしくお願ひ致します。